

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 12 月 10 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270500350		
法人名	社会福祉法人 恵光会		
事業所名	グループホーム 慈恵荘		
所在地	〒856-0032 長崎県大村市東大村2丁目1616番地14		
自己評価作成日	平成25年4月1日	評価結果市町受理日	平成26年3月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所一階
訪問調査日	平成26年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

内科協力医の毎週の往診全員、月2回の皮膚科往診、数か月ごとの耳鼻科往診、随時の歯科往診、かかりつけ医への通院・付添支援、地元との防災協力会の組織化と合同避難訓練の実施、施設内外研修会開催と関連協議会合同での研修会の企画と参加、目標管理面談と目標シート記入による全職員の育成、地域行事や近隣小学校行事への継続的参加、個別の買い物・外食・外出支援、
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

法人設立時の慈愛に満ちた人への思いやりや社会貢献への思いが、管理者を通して職員に浸透している。入居者の生活への満足を感じさせる穏やかな笑顔と職員の優しい言葉かけや物腰が印象的で、静謐な雰囲気の中に楽しげな笑い声と入居者同士や入居者と職員が語らう声が聞こえる。入居者は敷地内で野菜や果物の収穫し、調理を手伝い、職員に手ほどきをしながら「おはぎ」や「ちまき」を作り、また生け花や書道など以前からの趣味の継続をしている。花見や菖蒲見学などの外出、希望に沿っての買い物や外食を入居者と職員の一対一や
---

少人数で行っており、入居者がその時に自分が一番したいことを気兼ねなくできている。職員は入居者の状況の変化に対応した良い支援ができるように資格取得や研修に積極的に参加して自己研鑽に努め、法人や管理者は職員のその意欲に応じてサポートをしている。地域との連携や協力医との 24 時間の連絡体制にも安心感があり、また仏間参りや、神棚や敷地内の観音様に手を合わせるなど、心安らかになる場面が数多くあり、入居者の落ち着いた生活に繋がっている。

## 1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人開設時の50年前からの理念である「至誠天に通ず」を、利用者・家族・職員等にも理解しやすいように「まごころと思いやり」という言葉で掲示し、接遇面でも意識して取り組んでいる	法人は地域の方々への優しい思いやりから設立されており、ホームはその理念を現在も大切にして実践している。管理者は折にふれてその精神を語り、職員は実践に向けて自己研鑽に努めており、入居者の穏やかで屈託のない笑顔や職員の優しい言葉かけからも理念が浸透し、日々の生活の中に息づいていることが伺えた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会、夏祭り、神社祭り等への毎年の参加など、地域との交流を大切にしている	近隣の小学校から毎年、新茶の手揉み体験や運動会の招待を受けて子供達と触れ合う楽しい時間を持つことができている。また地域の神社の祭りや夏祭りにも参加して、地域の方と顔馴染みになり声をかけていただいている。地域の方には防災の協力をお願いしており、管理者も日中、近隣で火災が発生した際に駆けつけるなど地域貢献をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域行事への参加を通じて、介護保険や認知症に関する相談も受けて、対応している		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	きめ細かな取り組みの情報を開示し、事業所やグループホーム全般、市内・県内の情報も報告して、意見の活用につなげている	家族の参加が多い「春のふれあい食事会」を会議に繋げたことで本年度は7回の開催となった。通常の会議では入居者や家族、地域の方や市職員に参加頂いており、入居者の様子やホームの取り組みを積極的にお知らせしてご意見を頂いている。管理者が会議の中で大村市連絡協議会で行っている相互評価について説明したり、ホーム外での活動で得た情報の提供なども行った。	

5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険運営協議会や認定審査会、地域包括運営協議会等の委員も務めており、日頃から協働して課題解決に取り組んでいる		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部・内部研修のほか、市内協議会でも研修を企画・参加し、身体拘束のないケアに取り組んでいる	職員は研修参加や伝達講習を通して、身体拘束をしないケアについて理解し実践している。外出傾向のある入居者には、どこまでも寄り添い支援しており、睡眠導入剤等の使用も時として拘束にあたると思え、必要のない状況を作るよう努めている。「身体拘束をしない」というホームの方針への理解が深まるように家族にも研修会の案内をして、実際に参加頂いたこともあった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	市の虐待防止マニュアル作成にも直接携わり、複数の職員も研修履修済みで、定期的に職員面談等で未然防止にも取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の権利擁護委員会の委員も務めており、困難事例検討会にも直接携わり、利用者にも制度を活用している方がいる		

9	<p>○契約に関する説明と納得      契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前の段階から十分に説明をしたうえで、書類を確認・署名する時間的猶予も設定している</p>		
10	<p>6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映      利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>大村市の介護相談員派遣事業を毎月積極的に受け入れており、報告書記載の他事業所の出来事も参考にして改善につなげている</p>	<p>利用者には、常に感想を伺うという形で問いかけて運営に反映させるようにしている。「春のふれあい食事会」では入居者と家族と職員が共に楽しい時間を過ごして、親睦を深めると共に家族に状況を知って頂くことで、意見の出しやすい環境作りを行っている。本年度は食事会と運営推進会議との同時開催で、更なる意見の聴取に繋がるよう努めた。</p>	
11	<p>7 ○運営に関する職員意見の反映      代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期開催の勉強会や、日々の引き継ぎ時、随時の相談、個人面接での相談の機会を確保し、建設的な意見や目標設定も確認している</p>	<p>年に数回行われる職員と管理者の個人面談では、項目が多岐にわたる自己チェック表が使用され、その中に運営や接遇に関する項目もあり、面談の中で意見を表明することができている。研修後の伝達講習の場で提案として意見が出されることもある。また、普段から管理者は職員に意識的に声をかけて意見の聴取に務めている。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、認知症介護に昭和の時代から先駆的に取り組み、ホーム開設時から管理者に運営を一任している。人事コンサルタントも導入している。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職場内・外研修や市内各協議会の勉強会にも複数参加し、極めて質の高い研修にも全職員が参加しやすい環境を整えている</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市内協議会での事例検討や、事業者相互評価、スタッフ交換研修、スタッフ研究会等、連携と質の向上へ取り組んでいる</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の相談の際には、本人・家族・関係機関から話を聞くようにしており、入居時のケアプランに反映している</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の勤務によっては夜間に自宅訪問し、現在の暮らしぶりや困っている事等を聞きながら要望を引き出している</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談の内容に応じて、他機関を紹介したり、連絡調整したり、次につなげる対応をしている</p>		

18	<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>料理・裁縫・園芸など、今でも教えてもらう機会がある。職員によっては、結婚に関する相談をし、適切な助言を頂いたこともある。</p>		
19	<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えている関係を築いている</p>	<p>家族にできること、負担にならないことであれば、事前に協議して共に協力してもらうようにしている</p>		
20	<p>8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうち、支援に努めている</p>	<p>かかりつけ医や行きつけの時計店、スーパーなど、情報収集して大切にしたいところは継続している</p>	<p>ホームには入居者の信仰の関係者が見えたり、知人の訪問があったりして馴染みの関係の継続ができている。馴染みの場での買い物、食事なども機会を見つけて積極的に支援しており、また近くの馴染みの場だけでなく、遠方のかかりつけ医への受診支援や、故郷訪問の支援をしたことがある。実現が容易でない場合でも、入居者の思いに寄り添って支援に努めたいとの意識がある。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ご家族から頂いたお菓子等は、利用者の方に紹介しながら、お互いにお礼や言葉が言い合えるように関係づくりを意識している</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>他機関へ退所したご家族が、知人の入居相談に来られたり、懐かしくて来ましたといこともある</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ホームでの生活のみに限定せず、本人の希望を尋ねながら、最善の環境をチームで検討している	職員はふれあいの時間を多くとって、入居者の言葉や仕草から思いの把握をしている。職員が「寿司が食べたい」という入居者の言葉を聞いて行った外食支援は、その後「元気になってまた寿司を食べに行きたい」と話されるなど、その入居者にとって生活のモチベーションに繋がった。職員は思いの把握とその思いに沿った支援の大切さを理解しており、入居者の拒否の言葉や仕草、また入居前の詳細な調査からも思いの把握をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接調査や入居後の訪問の際に、必要な事項は信頼関係を築きながら確認している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事・睡眠・排泄・活動・服薬・習慣等に関する観察と記録に基づき、一人ひとりの生活パターンを把握したうえで対応している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントと希望の抽出、個別の検討会の開催により、本人本位の介護計画となるように努めている。直接手書きでの希望もある	管理者が計画作成担当者として一貫してアセスメント、プラン作成、モニタリング、評価を行っている。職員は普段の記録に加えて、管理者の指示で入居者のその時の状況に合わせて必要とされる記録も取っており、その記録がサービス担当者会議でのモニタリングの際に生かされている。ほとんどの家族が月1回以上来られるので、そこで意見を伺い、プランの確認もしていただいている。	



27	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別のケース記録、バイタル表、睡眠排泄表、服薬管理表、検診データや全体の共通用紙、状態に応じて個別の記録で、次につなげている</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>個別の活動や外出支援、全員で出かける時は併設機能を活かして送迎や付添支援を得ている</p>		
29	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>消防署とは日頃の避難訓練のほか、協議会での消火大会の窓口的役割により連携と親睦を図っている</p>		
30	<p>11 ○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>馴染みのかかりつけ医の継続のほか、内科協力医の毎週の往診、歯科・皮膚科・耳鼻科の往診・通院など、状態に応じて対応している</p>	<p>入居者のかかりつけ医への通院支援を行っている。更に協力医の往診や24時間の協力体制があり、また隣接する特養の看護師のアドバイスも受けられ、日頃の体調管理や病気の早期発見ができています。長崎医療センターとの連携や、年一回の長崎健康事業団のレントゲン検診も行われており、安心感のある支援ができています。</p>	
31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>内科医の往診・採血・処置・胸部レントゲン撮影時には併設の看護師が立ち会い、日頃から顔・名前・状態がわかっている。利用者の部下だった看護師もいる</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には情報交換や病院での食事介助、洗濯物の引き取りやパットの補充など、入院による不安の軽減や関係の継続、関わり記録もしている</p>		

33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族や連携機関と早い段階で意向や体制を確認しながら取り組んでいる</p>	<p>法人他施設との連携を期待される家族も多く、ホームは医療面での支援が必要な状況での看取りは行っていない。しかし普段からできる限りの支援を実直に行っており、結果的にそれが終末期の支援ともなることがあった。職員は医療センターのカンファレンスに参加するなど医療関係者との連携に努めており、ホームとしての支援の充実を図っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>普通救命講習、上級救命講習、防災訓練の傷病手当、その他の勉強会の開催を定期的に行っている</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域の防災協力会の組織化で定期的訓練の開催や、県の大規模災害訓練の実施施設にもなったことがある</p>	<p>消防署や消防団、地域の方に参加頂き年2回の避難訓練を行っている。その他にも毎月自主訓練を行っており、利用者が参加することにより避難時の行動を定着させるよう努めている。隣接する法人施設とは密接な緊急時の協力体制ができています。ホームでは基準よりも多く、各所に消火器を準備し、初期消火操法競技大会に参加するなどして技術向上を図っている。</p>	<p>避難訓練の回数も多く緊急時の対応について周知徹底されているが、避難口としての活用を考えている和室や各居室の掃き出し窓からの避難訓練は近年行われていない。入居者の安全を確保した上で実際の避難に近づけた訓練をして、実用性のあつた避難経路とされることを期待したい。</p>

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>個人情報に関する規定があり、法人の理念である「人を敬う」ということを大切にしている</p>	<p>職員は、目上の方である入居者への敬いの気持ちを忘れず、言葉遣いや表情や声のトーンにも気を配りながら支援している。入居者が1人になりたい時、仲間同士で過ごしたい時など、さりげなく見守ったり、会話に加わり場を繋げたり、入居者が望まれる生活シーンになるよう務めている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>自己決定の尊重はホームの運営方針の一つとして開設時から掲げており、選択肢を提案する場面が生活の中に定着している</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>戸外への自由な散歩や、買い物への要望は個別に対応するなど、一人ひとりのペースを大切にしている</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>化粧水や乳液・化粧の支援や、特別な日は着物や浴衣の着付けの支援もしている</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の買い物・調理・盛り付け・配膳・下膳や、畑での野菜作り等一緒に行うことで、役割や生きがいを発揮できる場面づくりをしている</p>	<p>美味しく良質な食の提供にこだわりをもっており、旬の食材を使い一品一品丁寧に美味しく調理している。入居者と共に敷地内での収穫物で梅干やラッキョウ漬けを作ったり、以前には味噌を作ることもあった。おはぎ作りやちまき作りなどでは職員が入居者に教えて頂くことも多く、楽しんで協同作業をしている。</p>	

41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の茶碗で管理栄養士に確認してもらうなど、併設機能をいかしたり、補助食品業者の栄養士ともかかわりがある		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、寝る前の義歯洗浄、舌ブラシの活用、パタカラ体操、研修会参加等で実践を継続している		
43	16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別の間隔やサインを確認し、尿意・便意がない方も誘導を試みるなど、状態に応じて随時見直している	無理をしない形で自立に近づける支援ができています。適切な時間誘導で、入居者に失敗なくトイレを使用して頂く様に努めており、ホームでの落ち着いた生活やリハビリ体操によって1人でトイレを使用できるようになられたり、紙パンツからパッド使用になられる入居者もおられ、家族が変化に驚いて喜ばれることもあった。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・食材・調理法・管理栄養士を講師としての勉強会・体操・薬の活用や、個別リズムに対する対応をしている		
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は毎日入ることができる。個別の状態やプライバシーにも配慮した対応をしている	ほとんどの入居者が毎日の入浴を希望されており、職員は入居者の身体の負担に配慮して、一日おきの洗髪で時間短縮を図るなどしながら安全で快適な時間となるよう支援している。入浴剤を使ったり、ゆず湯、菖蒲湯など楽しめる演出も行い、入居者はリラックスして職員との会話を楽しまれている。入浴後の保湿にも気が配られている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れやすい方には昼間に休息や下肢の浮腫軽減策をとったり、眠れない方には添い寝をするなど、個別に工夫している		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員、お薬手帳と薬局の一本化で情報共有し、個別に粉薬などの特性も周知され、薬の重複も無いように支援している		

48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	玄関先の花へ水やり、畑仕事、地域で児童と茶もみ、掃除や洗濯物干しとたたみなど、日々の役割を支援している		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中は鍵をかけない介護をしており、自由に戸外に出られる。季節感を肌で感じるドライブや外食・日用品の買い物支援をしている	花見や、菖蒲、紅葉見物など季節に合わせた外出を少人数で行い、入居者がその場で見たいものを見、食べたいものを食べることができる、その時その瞬間の気持ちを大事にした外出を支援している。買い物や外食も少人数で行い、お一人一人のニーズに応じて、家族と出かける時のように気兼ねのいらぬ時間を楽しんで頂けている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額持つことで安心する方は手元に持っており、買い物時に支払う機会もある。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望時にはいつでも無料で使えるようにしている。活動として手紙やメッセージを書く機会もある		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花や観葉植物・写真・カレンダー・家庭用の装飾品・季節の飾りに手作り暖簾・安らぎ作用がある暖色照明など、工夫している	リビング、ホール、廊下などいずれもゆったりとして安全性が高く、暖色系の照明で穏やかな雰囲気を作られている。大人の住まいとしての適度な落ち着きと清潔感があり、入居者は畳の間の大きなこたつに集まったり、各所に置かれたソファで寛がれている。広いホールでは室内でも十分に運動ができ、ホールで行うレクリエーション活動が入居者に好評である。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内に、一人や少人数で過ごせるソファや椅子を数か所設けている。実際に生活の中で活用されている。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前面接で確認した自宅居室を再現できるように、安心感につながる説明をして支援している	仏壇やテレビやこたつなど一般の家庭にあるものをほとんど持ち込み自分らしい居室としている入居者もおられる。職員が事前に自宅の写真を撮って、持ち込みの品の配置や飾り物の並べ方や雰囲気できるだけ再現して、落ち着いた居室となるよう務めている。カーテンの開閉なども入居者の気持ちに沿うように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリー設計で、一人でも自立できるように手すりを追加したり、福祉用具も活用している		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない